



## 春の特別講演会

# ”日本を取り戻す”ため、今こそ「行動の時」

■令和7年5月17日(土)  
■アパホテル札幌大通駅前



令和7年5月17日「日本女性の会

北海道」主催の特別講演会に高市早苗氏と元空将の尾上定正氏(下段写真右)をお迎えして、日本の未来と安全保障についてご参加頂いた230名の皆様と熱い講演を伺いました。その5か月後(10月21日)高市早苗氏は第104代内閣総理大臣に、尾上定正氏は内閣総理大臣補佐官として登用され日本再生への大きな一歩を踏み出す事となりました。自民党内外の圧力や嘘に満ちた政治の現実を心に痛めつつも「日本を想う政治家」がよう



2022年3月、東京にて初めて面会

やく頂点に立つたことに深く感銘を受けています。日本を救うには、国を想う心を失わず与野党を超えて一丸となる必要があります。高市早苗首相のように確固たる信念や強い精神力と使命感を持ち又私たち日本国民も「和の精神」「温故知新」の心で共に歩まねばなりません。講演で語られた見出しにある言葉の通りです。神のご加護を。

日本女性の会北海道

会長

浅井 洋子

(学校法人浅井学園 理事長)

## 特別講演会

# 「現代に活かすべき樋口中将の決断力」

■令和7年10月26日(日)  
■北海道モラロジィ会館3階

主催…未来を考える道民の会  
共催…日本会議北海道本部  
日本女性の会北海道ほか

最初の講演は「ロバート・D・エルドリツヂ氏。開口一番「樋口中将は世界を守った」から始まった。「樋口さんを知ったのは4・5年前。人道家の一人として一般的に知られているが、更に北海道を守った事、軍人として愛国者として戦後の世界を守ったと言える。」

「それは北海道を守った事により日本が分断されなかった。北海道が残る事により、世界により貢献出来た。もし北海道がソ連領だったら、安全保障上緊迫感は大変大きかった。東北に軍隊(自衛隊)を重点配備し、経済発展は大きく望めなかった。」と熱く語る。

樋口隆一先生はたくさんさんのエピソードを語ってくれましたが、その中で印象に残るのは「スターリンは確信を持って北海道占領を狙っていた。祖父(樋口中将)はそれをり

アルタイムで知っていた。それは世界中に5000人の部下がいて、情報を収集し報告してくれた。ヤルタの密約も知っていた。しかし東京ではシランプリ。」と話す。東京では、それを

知りながらソ連から中立条約を延長しないと通告されていたにも拘わらず、米英との終戦の仲介を期待していた。結果はソ連の侵攻により明らかである。情報とその活用がいかに大事であるか。

この度、高市総理が誕生し早く「国家情報局」の創設検討を木原官房長官に命じた。さらに、「国家情報会議」を創設する方針。

高市総理に情報に弱い日本を情報に強い日本にして欲しいと願うばかりである。

日本会議北海道本部常任理事  
未来を考える道民の会代表理事

相馬 隆義



## 「高市早苗自民党総裁選 必勝の集い」



令和7年9月21日、全国29拠点  
をオンラインで結び「高市早苗自  
民党総裁選必勝の集い」が、高市早  
苗さんを支援する地方議員有志の  
会の主催により開催されました。  
奇しくもこの日は、故・安倍晋三  
元総理の誕生日でもありました。  
札幌市中央区の会場には中村裕  
之衆議院議員や大越農子道議会議  
員をはじめ、道内各地から高市氏を  
応援する地方議員の参加があり、  
会場は全体で約50名の参加。高市  
総裁、高市総理を望む多くの皆様  
の熱気に包まれました。

## 日本女性の会 からのご案内



日本女性の会北海道は、今年度から月例会を  
開催しています。ラスクやサブレづくり、野菜の  
カービング教室(写真①)では藤澤ハナ子氏にご  
指導をいただき、参加者は興味津々に取り組んで  
いました。相馬隆義氏の歴史講座では学校の授業  
では何故か教わらない近現代史が参加者の知的  
好奇心を満たし、現代社会を理解する上で非常に  
重要な学びの場となっています。  
今後も楽しい企画を開催して  
コミュニケーションを図ってい  
きたいと思います。



日本女性の会北海道 理事 若原まゆみ

## 秋の特別講演会

### 日本文化と感性教育

大谷翔平を育てた日本の伝統文化教育

■令和7年10月11日(土)

■北海道モラロジィ会館3階

主催：日本女性の会北海道

講師：高橋史郎先生(麗澤大学特別教授)

原田隆史先生というカリスマ体  
育教師が作った「目標達成シート」  
に大谷翔平選手が高校1年生の時  
書いた話を話されたが、根底には  
「日本文化」「感性教育」がある  
という。ワールドシリーズにおいて  
ドジャースの二連覇の牽引者とし  
て大活躍したが、いつも変わらぬ  
姿勢・発言・行動力に感激させら  
れる。その原動力は、目標達成シ



トに書いた数々の言葉を確実に実  
践しているからと思われる。

その行動力を育て上げたのがご  
両親であると推察されます。高橋  
史郎先生が取り組んでいる「主体  
変容」の意味は「大人が変われば  
子供が変わる」と同じように「教  
師が変われば子供が変わる」とい  
うのが見えてくるそうです。大谷選  
手を見ていると、家庭教育・学校  
教育がとても素晴らしかったのか  
と思われる。話を聞くにつれ、日本  
人として日本に生まれた事に喜び  
を感じました。日本神話の「仕合  
わせ」から始まり、七五調のリズ  
ムと日本語の特質、「問」・「道」・  
「和」・「礼」等の日本文化であり、  
更には高橋先生の書かれたもの  
に、日本人と他の国の人との右脳  
と左脳の使い方が違うと書かれて  
あった。それは、キューバで歩いて  
いる時、虫の声が聞こえて来たの  
で「ああ、虫の声がきれいですね」  
と言う日本人と虫の声なんかしな  
いという他国の人との事から何故  
かと思いを調べた結果だという。

日本会議北海道本部常任理事  
日本女性の会北海道事務局補佐

相馬 隆義

# アイヌ問題 改善委員会 からの報告

## 妨害に 見舞われた パネル展

令和7年9月16日、日本会議は札幌駅前通りの「チカホ」で、アイヌ関連のパネル展を行いました。パネルそのものは「アイヌの史実を学ぶ会」と言う一般市民の学習グループが作成したものを借りました。グループは、道産子なのに、アイヌの知識が乏しいことに気づき、自分達でアイヌの史実を学ぼうと発足したものです。学習が一定の成果を得たことから、一般市民にも見て貰おうと30枚ほどのパネルが作成されました。

展示会にはテレビ局2社から取材の申し込みがあり、自然体で応じました。しかし、放送された番組を観てビックリしました。なんと、番組は展示会を非難する目的で、編集されていたのです。

### 警察部隊も出動！

展示会の災難は、それだけではありません。当日、展示が開始された直後、10人程の二団が現れ、展示を



写真①

非難しながら一般市民を遠ざけ、見学の妨害を始めました。(写真①) 大事には至りませんでした。関係者の連絡で、警察部隊の出動(写真②)もありました。

更に、不運が続きます。この展示会に続き、「アイヌの史実を学ぶ会」自身が10月8日に展示会を予定していました。ところが、両方に作業員のダブりがあり規定違反に当たるとして10月予定の承認が取り消されました。何を勘違いしたか「赤旗」が満面のハシヤギぶ



テレビ局から取材を受ける伊藤氏(右)

りでした。規定は念入りに読むべきですね。ご覧になった方はお分かりと思います。展示内容は素人のオジ・オ



写真②

**アイヌは湿地を嫌い  
開拓農民は湿地を選んだ**

明治32年、明治政府はアイヌの生活を改善するための「旧土人保護法」を制定しました。  
同時に、狩猟民が新しい時代に向かう農業を勧めました。  
農業を希望するアイヌには、開拓農民の標準面積と同じ5haの土地が貸与されました。

しかし、開拓地は必ずしも豊饒な土地ばかりではありません。手輪平地に入植した前田藩士族達は、砂地であったことから優良な農地に恵まれませんでした。  
また、毛・広大な泥炭地では、良質な土壌を選び込むためケーブルによる矢がかりな索道客土も行われました。

開拓農民は、水田耕作を望んでいました。そのため、高度な水利を確保するため、川に近い谷地(湿地)を選びました。  
逆に、古い伝えを重んじるアイヌは、谷地を嫌って、川から離れた知作平地を望みました。

ケーブルによる  
索道客土

展示したパネルの一部

皆さん達が学習で知り得た史実を、自信半分・不安半分でパネルにしただけなのです。当然、何かを主張したり非難するものではありません。なお、妨害の主謀者は関西の国立博物館職員でした。このために、わざわざ来札しようです。被害者である日本会議は、彼の公務員としての責任を問うつもりです。また、取り消された展示会は、令和8年3月に開催できるよう予約が出来ました。私共も、機会を逃さず展示会は続けるつもりです。まずは報告まで。

日本会議北海道本部常任理事  
アイヌ問題改善委員会委員長 伊藤昌勝

令和七年五月十四日

参議院議長

関口 昌一殿

「通常国会における皇族数確保のための法制化」を求める

要 望 書

関口参議院議長におかれましては、安定的な皇位継承の確保のため、ご尽力を賜わり、感謝申し上げます。

衆参両院議長ならびに各党におかれましては、安定的な皇位継承の確保のため、ご尽力を賜わり、感謝申し上げます。

さて、各党、各党派からの意見書、全体会議の開催、個別の意見聴取、そして中間報告にいたるまで分析させていただいた結果、主要政党間では左記のように合意が成立しているように思われます。すなわち

① 「悠仁親王殿下までの皇位継承の流れを揺るがせにしない」という点については、反対を表明する政党がなかったこと。

② 「女性皇族の婚姻後の皇族の身分保持を認める方策」でおおむね合意し、さらに「女性皇族の配偶者や子は皇族としないこと」についても八党派主要政党間で議論はあるものの反対はないこと。

③ 「皇統に属する男系男子を養子に迎える方策」についても、八党派が賛成しており、主要政党間では反対の表明はないこと。

このような合意形成の現状を踏まえ、今後速やかに立法府の良識を取りまとめ、皇族数の確保と安定的な皇位継承策の確立に一刻も早く取り組んで戴きますよう、衷心よりお願い申し上げます。加えてこの法制化を今通常国会で実現して戴くことも切に願っています。

皇室の伝統を守る国民の会

会長 山東 昭子（元参議院議長、参議院議員）

皇室の伝統を守る国民の会

「北海道代表委員」

浅井 洋子（学）浅井学園理事長

芦原 高穂 北海道神社庁長

阿部 国雄 北海道水産政治協会会長

伊藤 八郎（公財）新教育者連盟札幌支部長

角田 秀昭 上川神社宮司

藤山 敬廣 神道政治連盟北海道本部長

多田 和則 北海道ヘルメタス協会政治連盟理事長

玉木 勝美 伊藤組土建代表取締役会長

原 洋司 原洋司法律事務所所長、弁護士

古谷 良明 念法真教札幌念法寺主智者

星澤 幸子 星澤クッキングスタジオ代表取締役

間島誉史秀 北海道神宮宮司

宮元 仁 北海道行政書士会会長

「北海道「地方議員」代表委員」

北海道議会議員 大越 農子

北海道議会議員 藤沢 澄雄

札幌市議会議員 五十嵐 徳美

札幌市議会議員 長内 直也

札幌市議会議員 川田 匡桐

札幌市議会議員 北村 光一郎

札幌市議会議員 小須田 ともひろ

札幌市議会議員 小竹 知子

札幌市議会議員 佐々木 みつこ

札幌市議会議員 鈴木 健雄

札幌市議会議員 高橋 克朋

札幌市議会議員 中川 賢一

札幌市議会議員 伴 良隆

札幌市議会議員 藤田 稔人

札幌市議会議員 松井 隆文

札幌市議会議員 三神 英彦

札幌市議会議員 三上 洋右

札幌市議会議員 村上 叶啓

札幌市議会議員 山田 一郎

札幌市議会議員 山田 洋聡

札幌市議会議員 横山 峰子

札幌市議会議員 和田 勝也

「委員」

恵庭市議会議員 川原 光男

恵庭市議会議員 川股 洋一

恵庭市議会議員 小橋 薫

恵庭市議会議員 早坂 政芳

恵庭市議会議員 前田 孝雄

恵庭市議会議員 三上まどか

恵庭市議会議員 宮 利徳

寿都町議会議員 小西 正尚

千歳市議会議員 五十嵐桂一

千歳市議会議員 山口 康弘

標茶町議会議員 長尾 式宮

【連絡先】

皇室の伝統を守る道民の会

〒〇六〇〇〇六二

札幌市中央区南一条西七丁目四一  
第七松井ビル三階C  
日本会議北海道本部事務局分室内

**拉致問題  
対策委員会  
活動報告**

私が拉致問題に関する行事を催す一番の目的は、  
**一人でも多くの方々にこの現実を知っていただく事です。**

拉致問題対策委員会 副委員長 若狭亮子

我が国の歴代首相が就任時に口に  
する言葉に「拉致問題は我が内閣の  
最重要課題です」「ひと時もゆるがせ  
にできない人権問題です」というのが  
ありますが、その力強い言葉とは裏腹  
に、2002年の5名の帰国以来23  
年もの間、一人の拉致被害者も救出  
できないどころか、具体的な方策につ  
いて一切打ち出されていないことを  
考えると、日本政府の本気度はゼロ  
に等しいと言わざるを得ません。

このもどかしい現状を少しでも動  
かしたい思いで、令和4年11月に個人  
の主催で拉致問題について描かれて  
いる映画『めぐみへの誓い』の上映会  
を開催しました。(写真①) 豊平区に



写真②

**「拉致問題対策委員会」設立**

2023年5月に南区の地区セ  
ンターで催しを行った際には、こ  
の活動がもつと広がるようにと、  
日本会議北海道本部常任理事の中  
濱勝彦氏より「拉致問題対策委員  
会を設置しましょう」とのご提案  
をいただき、間もなく理事会での  
承認を得る運びとなったのは大変  
ありがたい事でした。

委員会としての活動ですが、発  
足の前から署名活動(写真②)に力  
を入れてこられた帯広在住の白木  
智子さんは、署名を集める場所を  
工夫され、主にスーパリーの店頭で  
の活動で毎回200〜400筆の

署名を集めています。

**「朗読劇」を開催**

2024年11月には、札幌市議  
会議員の川田ただひさ氏による  
「なぜ拉致問題が未だに解決でき  
ないのか」という講演と合わせ、  
脱北者の苦しみを描いた映画『ク  
ロッシング』の上映会を開催。そ  
の他、拉致被害者である田中美さ  
んと金田龍光さんをモデルに描か  
れた戯曲の編著『よそのくに』(三  
浦小太郎氏)を用いて定期的に朗  
読劇を行っています。(写真③)



写真③

私が拉致問題に関する行事を催  
す一番の目的は、一人でも多くの  
方々にこの現実を知っていただく  
事です。日本人は団結力があり、

時には己を犠牲にしても仲間を  
大切にする民族です。拉致犯罪の  
事実を知れば、必ず何とかしよう  
と行動を起こす方が現れます。

飛行機ならば数時間で迎えに行  
ける距離にいる拉致被害者を何十  
年も救い出せない、この異常な拉  
致問題を少しでも前進させるため  
には、国民が声を上げることが一  
番効果的です。どうかこの拙い文  
章に目を通された皆様は、拉致に  
関してアンテナを張っていただき、  
行事があれば足を運んでもらい、  
友人知人に声を掛け、首相官邸に  
メールを送る等々の行動を起こし  
てくださいますよう、心よりお願  
い申し上げます。

写真①



**※特定失踪者問題調査会**  
北朝鮮向けラジオ「しおかぜ」  
マンスリーサポート 月1,000円〜有り  
<https://www.chosa-kai.jp/>

**※拉致被害者全員奪還ツイキャス**  
毎週日曜日 夜9:55〜  
<https://twitcasting.tv/shellymamy1>



恵庭支部

事務局長 梶原 榮利



## 戦没者慰霊祭の実施について

日本会議恵庭支部は、令和七年九月十三日（土）恵庭市豊栄神社において、恵庭市から先の大戦に出征されくしくも国難に殉じられた英霊（日清・日露戦争三百三十七柱、大東亜戦争二百二十一柱）総勢五百五十八柱の尊いご功績を称え、今を平和に生きる我々が過去の国難から我が日本国を守る為に先人が尊い命を犠牲にして成り立っており、今を平和に暮らせていることへの感謝と未来永劫の平和を守る決意を示す為、戦没者慰霊祭を実施した。

戦没者慰霊祭には、ご多忙な中を恵庭市長「原田裕様」、北海道議会議員「早坂貴敏様」、前衆議院議員「和田義明先生」、（田中芳憲道議院緊急入院となり欠席）、日本会議恵庭支部会員である恵庭市議会議員七名、また日本会議北海道本部からもご来賓として「中濱勝彦氏」、その他当会の会員等総勢三十三名が出席して、午前十一時に国家斉唱から戦没者へ「国の鎮め」の音楽に合わせた黙とうから始まり、豊栄神社の宮司による祝詞奏上が遂



行され、参加者全員が一人一人祭壇に玉ぐしを奉納して、戦没者への慰霊と尊崇の誠を捧げたあと、ご来賓の原田裕恵庭市長・早坂貴敏北海道議会議員・和田義明前衆議院議員のご挨拶を賜り、最後に宮利徳日本会議恵庭支部長（恵庭市議会議員）の謝辞をもって厳粛の内に終了した。

## 恵庭市成人式において 国旗小旗頒布を実施

日本会議恵庭支部は令和七年一月十二日（日）午後一時から二時までの間、恵庭市が主催する「恵庭市はたちのつどい」に参加する新成人者（対象者四八八名）に対して年度計画に基づき「日の丸の小旗」頒布を実施しました。今年度はコロナ禍も収まり全成人者を同一時間で午後一回のみで実施しました。幸いに好天に恵まれたとはいえず零下五度の寒い中「宮利徳支部長（恵庭市議会議員）」、「小橋薫幹事長（同）」以下スタッフ八名と日本会議会員の恵庭市議会議員二名（川保洋一氏、前田孝雄氏）の積極に参加して頂き、式典に出席した新成人に日の丸小旗を「成人おめでとう！」と一人一人に声掛けしながら準備した四〇〇本すべてを頒布しました。



## 提 言

# 美辞麗句に隠された 「地域破壊政策」

## 共生社会推進条例



本年の3月札幌市議会第一回定例議会で「俗名」共生社会推進条例（札幌市誰もがつながり合う共生のまちづくり条例）が制定された。私含め7名ほど明確に反対したが、賛成多数で可決されてしまった。

### この賛否があった本条例は 一体どのようなものか。

この条例は、秋元札幌市長の公約である。秋元氏がかつて北教組の顧問弁護士を務め市長となった上田文雄氏の後継である。上田氏は現職中、区の新年互例会などでも君が代斉唱が終了してから入場して市長として挨拶をし、市長室からも日の丸を撤去するなど反日思想で市政運営を行ってきた。

その思想で障がい者、高齢者含め年齢、性別、国籍、民族問わず共生を目指す「美辞麗句」を巧みに駆使しながら本来課題は別々

なのに一緒くたにしていることは問題である。無論、障がい者、高齢者は社会的な支援が必要で手助けをしていく社会、すなわち「共生社会」を構築する努力は異論がない。子供も同じである。

### 問題は性別、国籍、民族

性別とは性的マイノリティといわれるLGBTQといわれる人たちを意識したものである。これは医学的には本来議論が分かれるが、人種的闘争を持ち込み、グローバル勢力にもつながる世界革命を目指した共産主義勢力による国家破壊活動の手法の一つにLGBTQ活動支援がある。それを前提とする社会は大多数である通常の男女への社会的影響が出る。

次は国籍である。現行憲法上「国民」の要件が条文化されてお

り、その国民による「国民主権」と唱えておいて外国人に過剰な権利の付与は明らかに現行憲法違反である。外国人は人道的保護と国益を害する外国人への厳格な対処することを分けて考えることは必要で「共生」と関係がない。

民族は、アイヌを想定している。アイヌ施策推進法が制定され更に予算化される事態になった。北海道は古代の昔から日本であり、そこに住む人達は日本人である。すなわち特別に現在措置をする人たちでない。私は議会で上田市政、現市政でも必ず問いただしているのが「北海道は明治以前も日本であつたか否か」である。回答は必ず「日本です」と応える。今更何を聞くかと思うかもしれないが、この繰り返しが必要ならばアイヌは日本の侵略で虐げられた民族という勝手なストーリーをつくられ多大な補償の対象とされてしまう。

「継続的に」、「政策を加速させる」ために条例化すると秋元市長は議会などで述べていることを解釈すると共産主義思想に基づいた概念を固定化しようとする意図で、

我々市民が意図としない市政運営がなされ、過剰にそれら反日勢力に予算が振り分けられる根拠になる。

### 今後考えられる運動

日本会議北海道本部としても条例化阻止のために陳情を行い、議会では陳情審査で趣旨説明を行い、また、一般市民からも1000人以上の反対のパブリックコメントへの意見、150件を超す反対陳情もある中で全く無視して制定された。後は地方自治法上、条例改廃は札幌市在住の有権者50分の1の署名で改廃が出来る。令和7年9月1日時点で1,689,950人が対象有権者。単純に計算すれば33,799人である。そのような運動も今後は必要なのではないだろうか。



札幌市議会議員  
日本会議北海道本部  
常任理事  
川田 ただひさ